

〔倭名類聚抄〕瘤 痘源論云、瘤、留反、和名、皮肉急腫起、初如梅李、漸長大不癢不痛、又不堅强者也。

〔箋注倭名類聚抄〕山田本作力求反、那波本同、並與廣韻合、醫心方結核訓之比禰○中原書肉下

略中

有中字無如字、李下有大字、不癢不痛作不痛不痒、堅作結、按、玉篇、痒癢同上、曲直瀨本堅作緊、恐非、按瘤即下條所載疣也、素問靈樞病源候論等書、有瘤無疣、廣雅有疣無瘤、廣雅云、疣小腫也、玄應音義引三蒼云、瘤小腫也、二字同訓、又留尤同韻則瘤疣其實似同、然說文瘤腫也、疣贅也、釋名瘤流也、血流聚所生、瘤腫也、疣丘也、出皮上聚高、如地之有丘也、則二物各別、未知其詳、又按之比禰蓋謂惡核病病源候論云、惡核者肉裏忽有核、累々如梅李小如豆粒、皮內燥痛、左右走、身中卒然而起是也、其候與瘤候略似、故源君以瘤爲志比禰也、

〔撮壤集〕病疾瘤

〔增補下學集〕病瘤

〔類聚名物考〕病瘤

亥ひね

これは皮肉間の熱氣によりて、にはかに腫いだして、ちさき物の出來しが、ようく大きくなりて、贅の如くにて、痛まずかたからず、俗に水ぶくれなどいふの類ひなり、瘤も古布とよめども、ここにては急に出來て、またそのまゝ愈る事も有る故、贅と同じからず、明月記に之井子と書れしは、假名たがへり、又榮花物語にも有り、

〔醫心方〕十六治瘤方第十五

病源論云、瘤者、皮肉中忽腫起、初如梅李、大漸長大、不癢不痛、又不結、強言瘤結不散、謂之爲瘤不治、乃至壘大、則不復痛、不能殺人、亦慎不可輒破之、

〔有林福田方〕十七瘻瘤

コブシイエ イリウ

論云、多ク喜怒憂思ニ由テ氣凝リ、血滯テ成スル處ナリ、凡五瘻者、石瘻、肉一、筋一、血一、氣一、是也、又